

佳作

初めての海

宮城県 聖ドミニコ学院小学校三年 八幡 凜

わたしは、仙台市に住んでいます。家の近くに遊べる海がないので、海で泳いだことがありません。だから、母が、

「今年の夏は海に行こう。」

と、言ったのを聞いて、とてもワクワクしました。「海って、どれくらい広いのかな。」

と、夏休みが待ち遠しくて仕方ありませんでした。いよいよ夏休みがやってきました。飛行機にのって、たどりついたのは、和歌山県の白良浜でした。わたしは、やっと着いたとうれしくなりました。旅館で水着にきがえて、歩いて海まで行きました。海に近づくにつれて、にぎやかな音楽が聞こえてきました。その音楽がだんだん大きくなり、わたしの心ぞうのドキドキもすごい勢いで大きくなりました。

さい初に、砂浜に足を入れると、砂がさらさらし

ていてしずみそうになりました。目の前の海を見わたすと、きらきら光っていました。海はとても広くて、青くて、まるで青空みたいでした。わたしは、足の先からゆっくり海に入ろうと思ったのに、ざぶんと波が来て、あつという間にこしまで水につかっ
てしまいました。海は思ったより冷たくなかったけれど、波にすいこまれたりおされたりして、わたしはあわてて水を両手でかいて砂浜までもどりました。こんどは、息を整えてから、頭を上げたまま平泳ぎで泳いでみました。顔がぬれないように砂浜の方を向いて泳いでいたら、後ろからまた波が来て頭まで水をかぶってしまいました。海の水はおしょう油と同じくらいしょっぱくて、べろがぴりぴりしました。はなにも水が入ってしまい、じーんといたくな
って、プールの水よりずっとはなにしみました。

「前にテレビで見たように、海の水にはしおがま
ざっているという話は本当だったんだなあ」と、思
いました。

海の波としゃべりに少しなれたころ、旅館にも
どる時間になってしまいました。わたしは、もう少
し海で泳ぎたかったとさみしい気持ちになりました。
シャワーで体についた砂を落としてから、もう一度

海を見わたすと、さい初に海に来た時よりもきらきらとかがやいていました。わたしは、またこの海に来たいと思いました。

その後、海にはなぜ波があるのかについて図かんで調べたら、風がふいて海の表面にでこぼこができるからだと分かりました。海の水がしょっぱいのは、何十おく年も前からのようなでした。海にはふしぎなことがたくさんありました。わたしは、海についてもっと知りたいと思いました。そして、つぎに海に行く時は、もっと上手に泳げるようにしたいと思いました。